

2017年度 キャリタス就活 学生モニター調査結果 (2016年4月発行)

第5回調査

4月1日時点の就職活動調査

企業の採用広報開始から1カ月。学生の就職活動はどのように進んでいるだろうか。4月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行い、前年同期調査や先月(3月)調査の結果と比較するなどして、2017年卒学生の特徴を分析した。

1. エントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は37.3社。前年同期より7.4社少ない
- ダイレクトメールの到着数は、平均415通。前年同期より90通多く、開封率は低下

2. セミナー・会社説明会への参加状況

- 一人あたりの平均参加社数は33.6社。前年と同水準だが、単独セミナーへの参加が急増

3. 選考試験の受験状況

- エントリーシート提出者は87.1%。提出社数は6.5社。前年より2社増加
- 選考試験の平均受験社数は、筆記4.4社、面接2.6社、グループディスカッション2.1社

4. リクルーターからの接触

- リクルーターからの接触経験を持つのは全体の36.5%
- 「プレエントリーをしたら連絡が来た」43.7%、「セミナーに参加したら連絡が来た」41.7%

5. 学業と就職活動の両立

- 学業への負荷「大きい」49.5%、「小さい」50.5%。理系では「大きい」64.3%
- 企業への要望、「日程の選択肢を多く」83.9%、「土日・祝日に実施」39.3%、「夕方以降」29.8%

6. 4月1日現在の内定状況

- 内定率は11.8%。前年同期(7.1%)より4.7ポイント増
- 内定者のうち、就職先を決定して就職活動を終了したのは、僅か8.2%

7. 内定業界と企業規模

- 「調査・コンサルタント」「情報処理・ソフトウェア」「建設・住宅・不動産」の順に多い
- 内定企業の規模は「1,000人~4,999人」が44.3%で最多。「5,000人以上」は31.0%

8. 今後の就職活動の戦略・方針

- 「これまで興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する」が過半数
- 全体の9割が「新たな企業を探している」。探す手段は「就職情報サイト」92.0%

調査概要

調査対象 : 2017年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,334人(文系男子487人、文系女子368人、理系男子335人、理系女子144人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2016年4月1日~6日
サンプリング : キャリタス就活2017学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

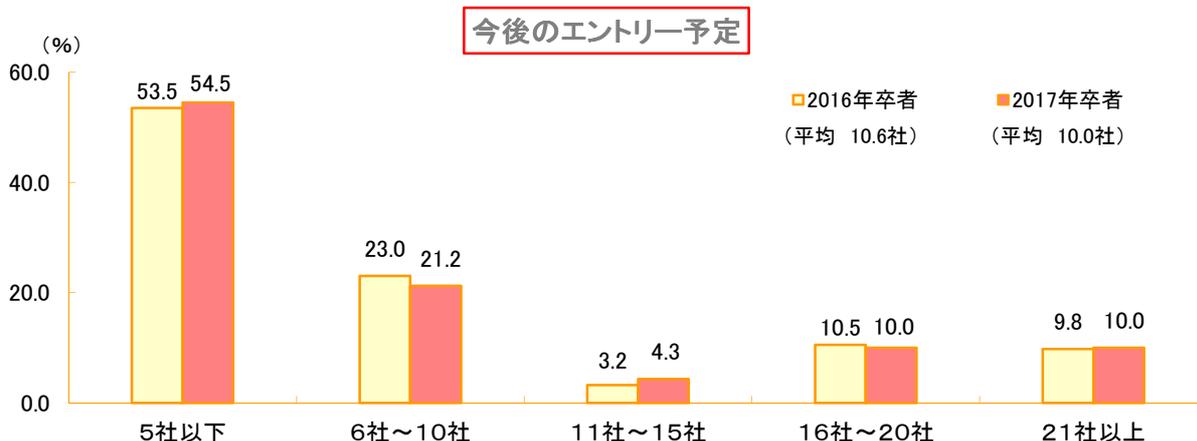
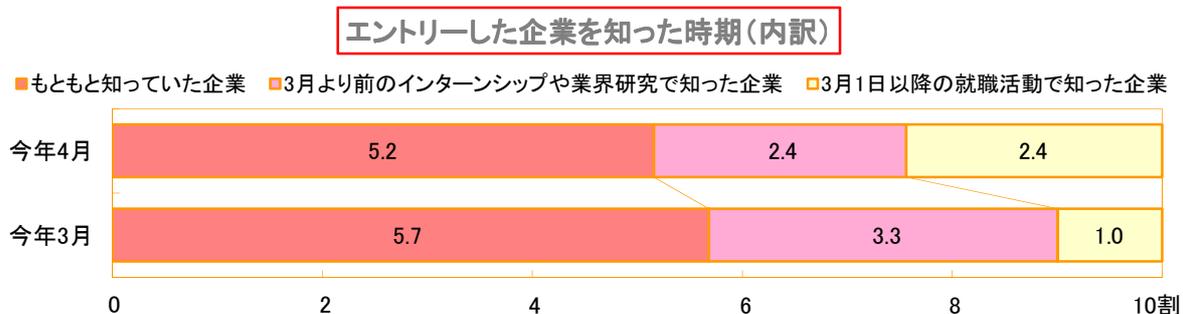
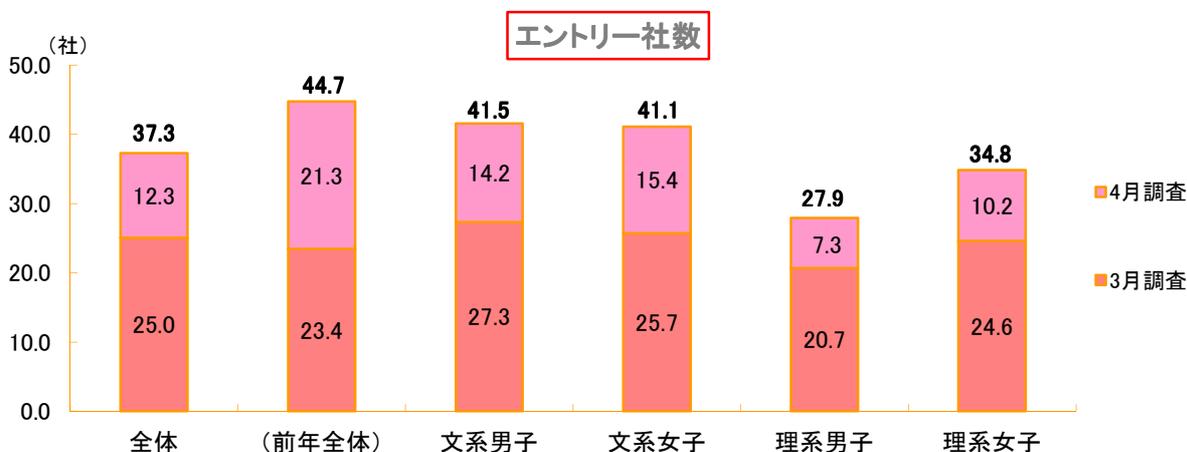
1. エントリー状況

就職活動本格スタートから1カ月が経過した4月1日時点の活動量を見てみよう。

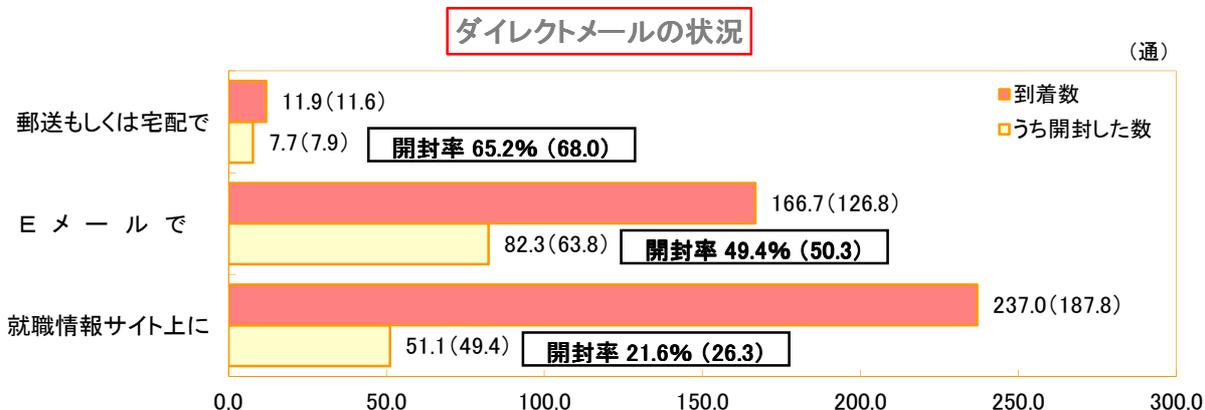
一人あたりのエントリー社数の平均は37.3社。前年同期調査 (44.7社) より7.4社少ない。3月調査では前年をやや上回っていたが、その後の伸びはかなり鈍い。当社が3月下旬に実施した緊急企業調査では、エントリー数が減少し母集団形成に苦戦する企業の様子が表れていたが、それを裏付けている。

エントリーした企業を知った時期を見ると、「3月1日以降に知った企業」の割合は、先月調査では僅か1.0割だったのが、今回は2.4割にまで増えた。とは言え、「もともと知っていた企業」5.2割、「3月より前のインターンシップや業界・企業研究などで知った企業」2.4割と、就活解禁前に知った企業がまだ7割以上を占める (7.6割)。解禁前 (プレ期) に知った企業を中心に活動していることがわかる。

今後のエントリー予定社数は平均すると10.0社だが、「5社以下」が過半数を占める (54.5%)。今後エントリーを増やしたい企業にとっては、学生の目に留まる工夫が求められそうだ。



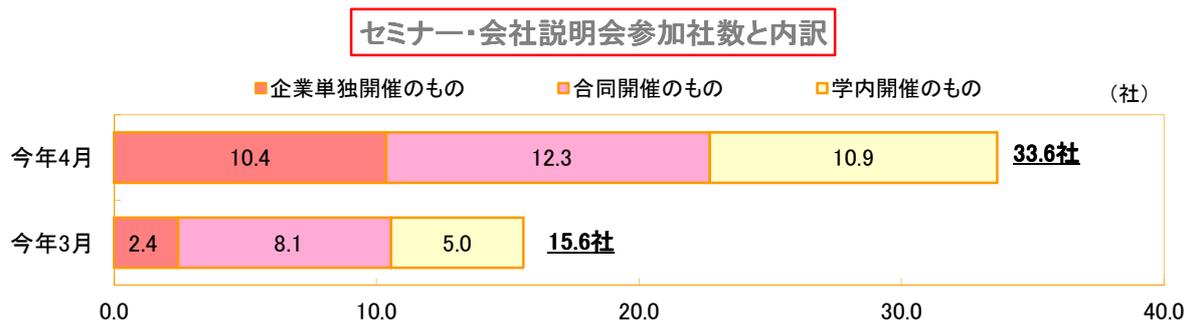
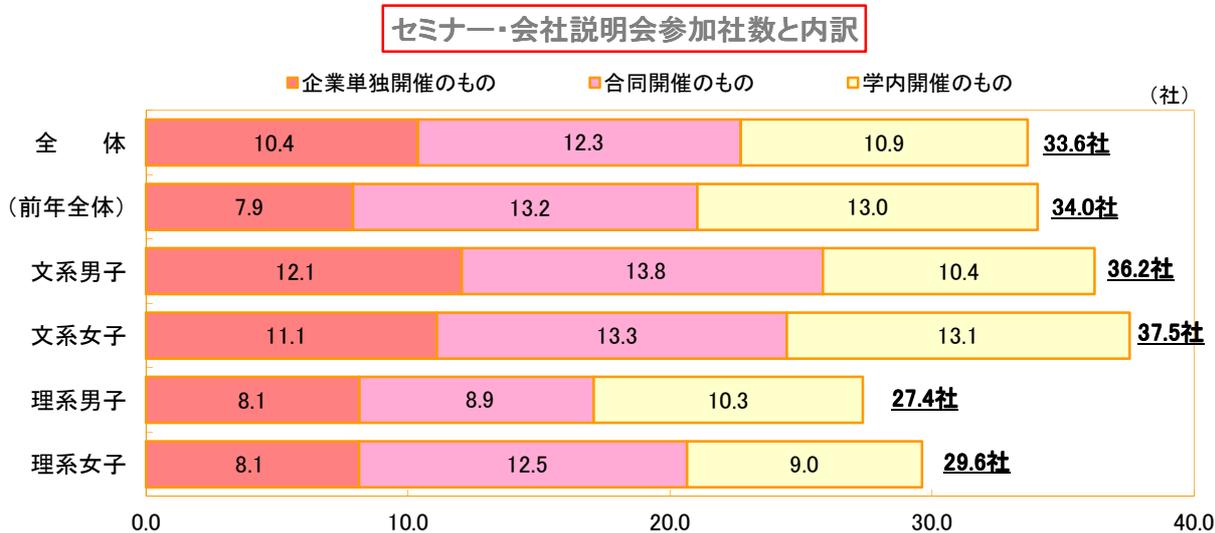
一方、ダイレクトメールの到着数は大幅に増加している。郵送・Eメールなど全形式の合計で平均415通と、前年同期(326通)より約90通も増え、企業側が前年以上に積極的にアプローチしている様子が表れている。開封率はやや低下したものの、到着数が増えた分、開封した数も増えている。



※()内は2015年4月調査の数値

2. セミナー・会社説明会への参加状況

セミナー・会社説明会の平均参加社数は33.6社で、前年同期(34.0社)と同水準。ただし、開催形式ごとに見ると、企業単独開催のもの(企業単独セミナー)が10.4社と、前年同期(7.9社)より2.5社多い。先月(3月)調査では企業単独セミナーは2.4社だったから、この1カ月で企業単独セミナーへの参加が急激に増えた様子がわかる。



3. 選考試験の受験状況

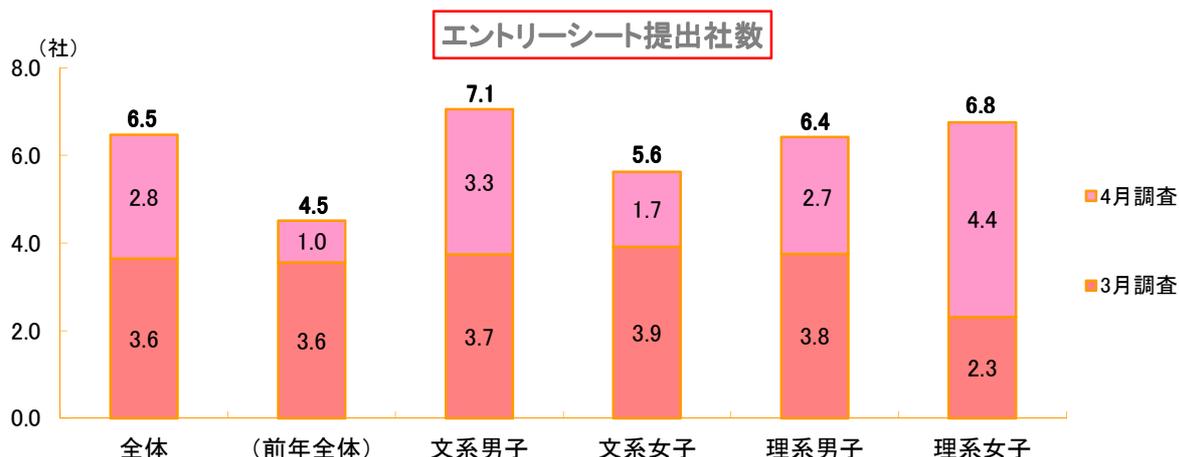
エントリーシートを提出した学生は全体の87.1%。就活スタートから1カ月で、9割近くがすでに提出経験をもつ。提出社数の平均は6.5社で、前年同期(4.5社)を2社上回る。かなり早いペースで進んでいるが、前年よりも選考解禁が2カ月早まる分、エントリーシートの締切日が早まっているのが要因だろう。大手企業では初回の提出期限を4月中旬～下旬に設定しているケースが多いようだ。

筆記・WEB試験を受験した学生は81.9%、面接試験受験者は56.8%、グループディスカッション39.6%と、いずれも前年同期を上回る経験率で、企業側が前年よりも早く選考を進めている様子が見える。受験社数の平均は、筆記・WEB試験4.4社、面接試験2.6社、グループディスカッション2.1社。

エントリー社数は減っているが、その後のセミナー参加や選考試験については逆に前年より増えており、多くの業界・企業を見ることなく就職活動を進めている学生が増えていることがうかがえる。

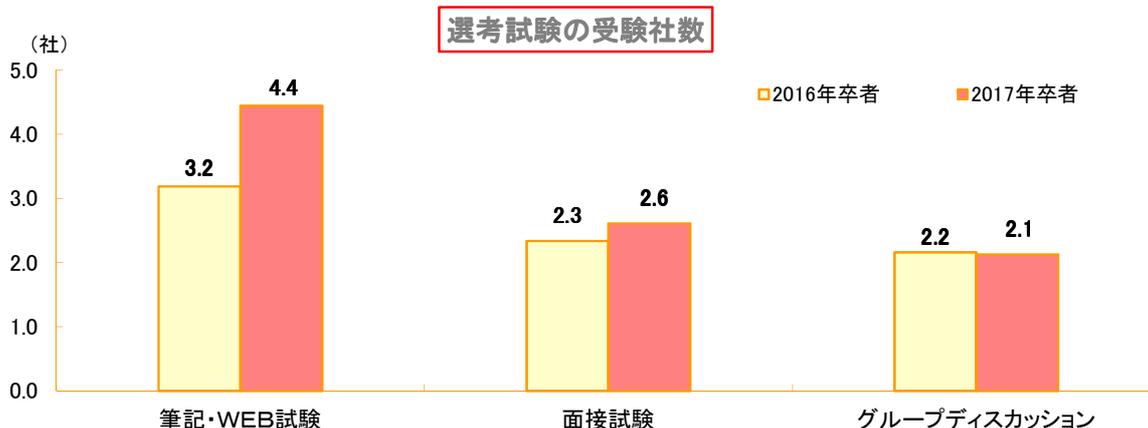
エントリーシート提出の有無

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
提出した	87.1	78.1	88.1	88.6	83.3	88.9
提出していない	12.9	21.9	11.9	11.4	16.7	11.1



選考試験の受験有無

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験を受験した	81.9	71.3	81.1	82.3	82.4	81.9
面接試験を受験した	56.8	49.8	59.1	57.1	53.4	56.3
グループディスカッションを受験した	39.6	32.8	45.2	39.9	32.5	36.1



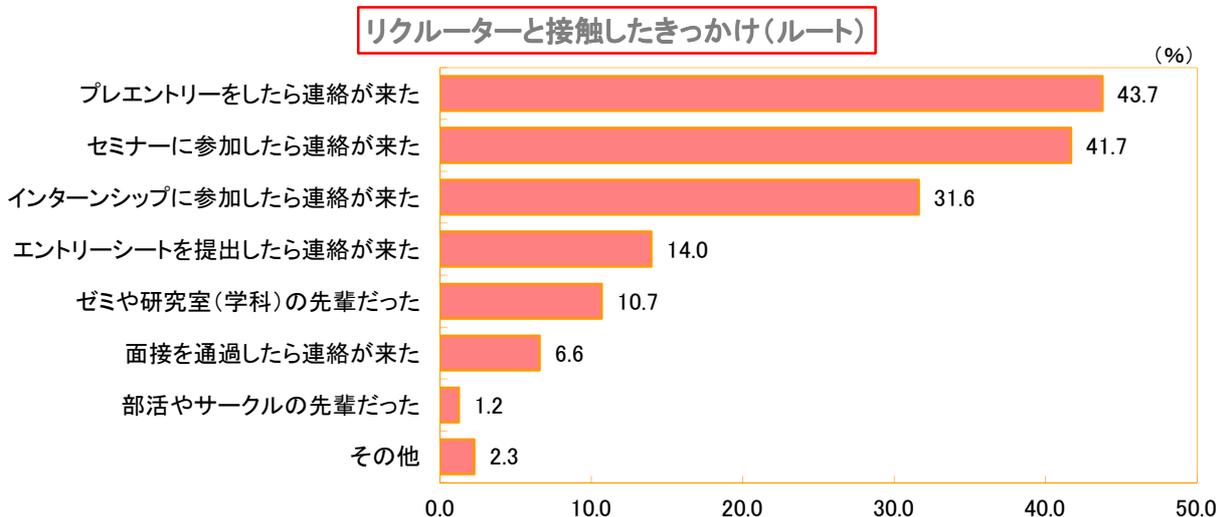
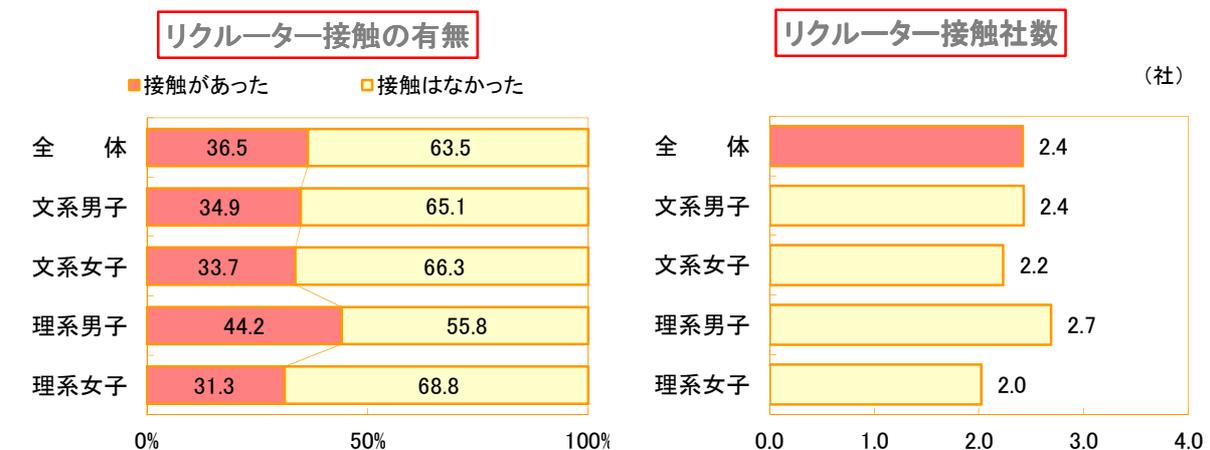
4. リクルーターからの接触

選考までの期間の短縮で、優秀な学生を確保できないのではとの危機感が企業に広がっているが、解決策の一つとしてリクルーター活用に取り組む動きが見られる。

今回リクルーターからの接触を受けたと回答したのは、全体の36.5%。3人に1人以上の割合だ。文理男女別に見ると、理系男子で4割を超え(44.2%)、接触経験を持つ学生の割合が高い。研究室単位でのアプローチが多いことが要因と考えられる。

接触を受けた社数は全体平均で2.4社。理系男子は2.7社と、他の属性よりもやや多かった。

リクルーターと接触したきっかけで最も多いのは「プレエントリーをしたら連絡が来た」43.7%で、僅差で「セミナーに参加したら連絡が来た」41.7%が続く。この2項目が4割を超え多い。



	全体 (%)	文系男子 (%)	文系女子 (%)	理系男子 (%)	理系女子 (%)
プレエントリーをしたら連絡が来た	43.7	45.9	37.1	50.0	33.3
セミナーに参加したら連絡が来た	41.7	40.0	46.0	39.9	42.2
インターンシップに参加したら連絡が来た	31.6	39.4	31.5	24.3	26.7
エントリーシートを提出したら連絡が来た	14.0	19.4	10.5	10.1	15.6
ゼミや研究室(学科)の先輩だった	10.7	1.2	1.6	28.4	13.3
面接を通過したら連絡が来た	6.6	6.5	8.9	5.4	4.4
部活やサークルの先輩だった	1.2	1.2	0.8	1.4	2.2
その他	2.3	2.4	1.6	1.4	6.7

5. 学業と就職活動の両立

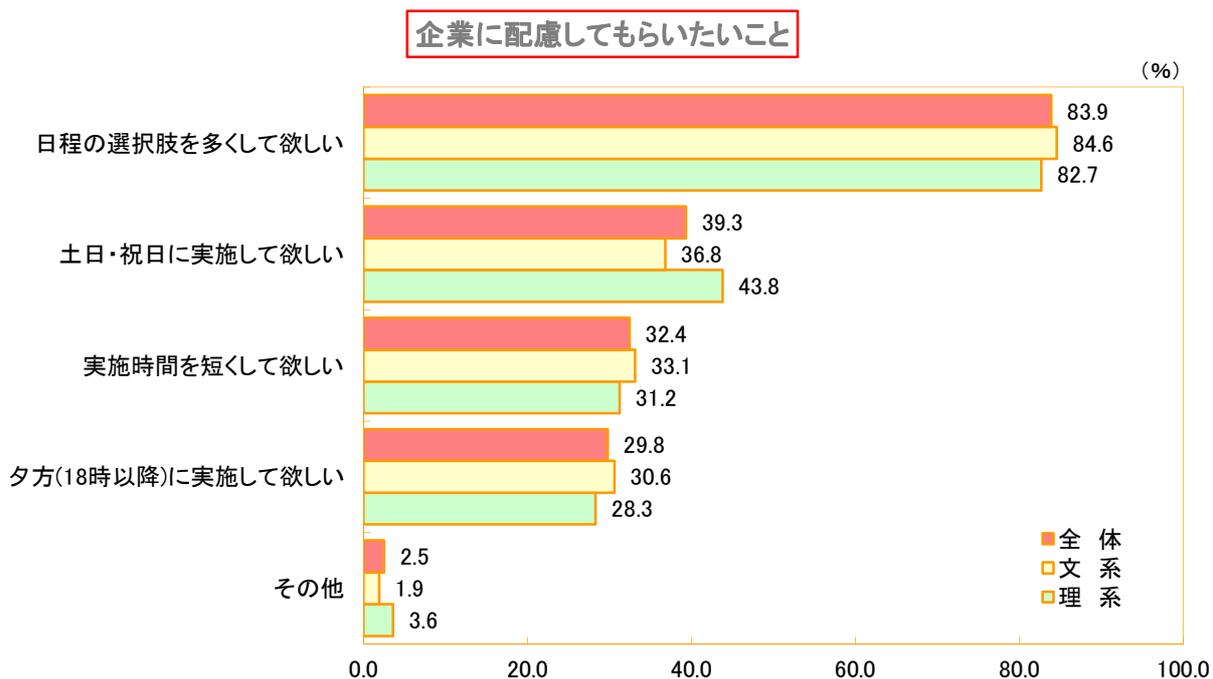
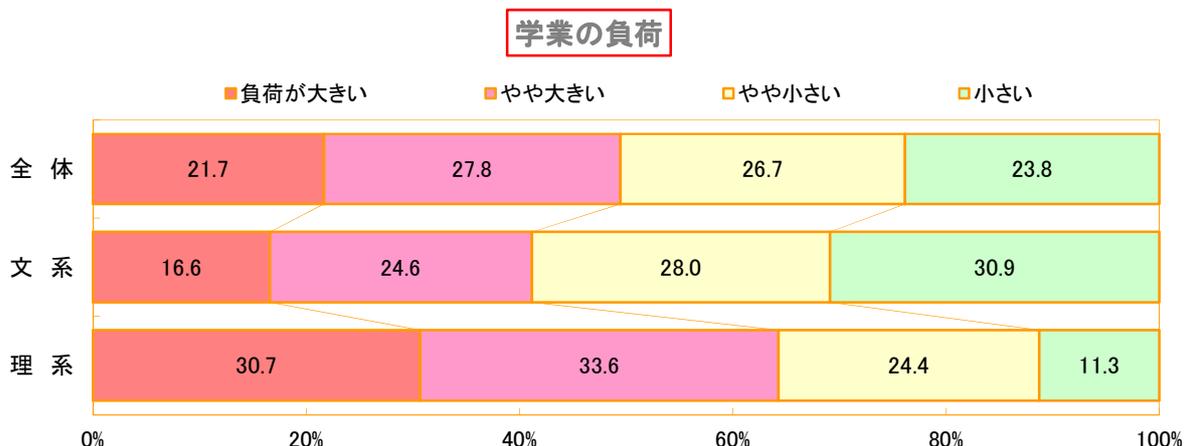
今回のスケジュール変更で授業期間中（6月）に選考解禁を迎えることになり、学業への影響が懸念される中、学生自身は就職活動と学業の両立についてどのように考えているのかを尋ねた。

学業（授業・ゼミ・研究など）の負荷に対して、「大きい」「やや大きい」を合わせて49.5%、「小さい」「やや小さい」の合計は50.5%と、半々に分かれた。しかし、文理で差があり、理系では「大きい」の合計が6割を超え（64.3%）、スケジュール変更は理系学生において、より影響が大きいことがわかる。

セミナーや選考日程について企業に配慮してもらいたいことを尋ねると、「日程の選択肢を多くして欲しい」が8割を超え圧倒的に多かった（83.9%）。経団連は、面接が授業などと重ならないように土日祝日や夕方以降の時間帯を活用することを指針に盛り込んだが、「土日・祝日に実施して欲しい」は4割弱（39.3%）、「夕方に実施して欲しい」は3割弱（29.8%）という結果だった。

また、短期化でセミナー開催が集中し思うように参加できないことから、時間を有効的に使え負担も少ないWEBセミナーを望む声も寄せられた。

今年の過密なスケジュールを考えると、学生の負担を少しでも軽減できるよう、企業側も学生の声に応える姿勢や配慮が必要だろう。



6. 4月1日現在の内定状況

4月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の11.8%で、先月(3月1日)の5.0%から1カ月で6.8ポイント増えた。前年同期(7.1%)を4.7ポイント上回り、前年より早いペースで内定を得ていることがわかった。企業の内定出しのペースがそれだけ早いということだろう。

文理別に見ると、理系よりも文系でやや高い数値を示し、先行している様子が表れている。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは8.2%にとどまり、9割以上(90.5%)が内定を保持しながら就職活動を続けている。

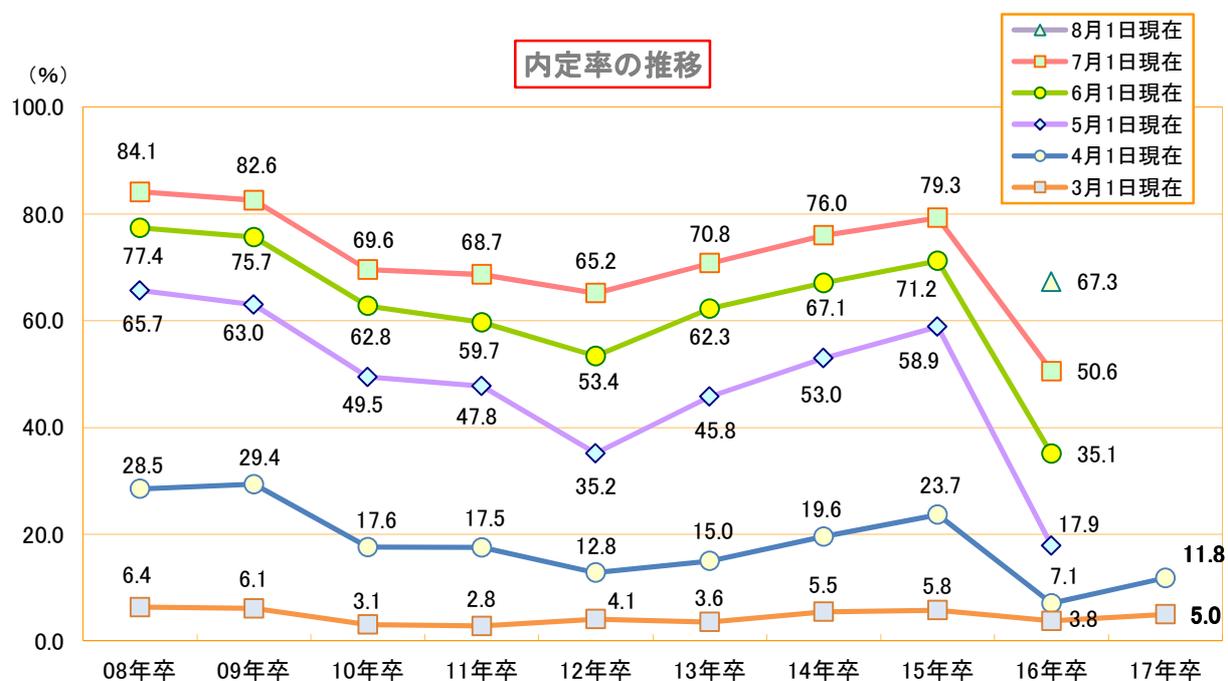
4月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む
(%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
内定あり	11.8 (7.1)	13.1 (8.7)	12.0 (5.9)	10.7 (6.4)	9.7 (7.8)	
内定なし	88.2 (92.9)	86.9 (91.3)	88.0 (94.1)	89.3 (93.6)	90.3 (92.2)	
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	8.2 (15.5)	7.8 (8.3)	4.5 (17.4)	16.7 (20.0)	0.0 (23.1)
	活動は終了したが複数内定保持	1.3 (2.1)	1.6 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (4.0)	7.1 (7.7)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.0 (1.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (4.0)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	90.5 (81.4)	90.6 (91.7)	95.5 (82.6)	83.3 (72.0)	92.9 (69.2)

(社)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均	1.4 (1.2)	1.6 (1.2)	1.2 (1.2)	1.3 (1.2)	1.5 (1.1)



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17卒は6月

7. 内定業界と企業規模

現時点で学生がどういった業界から内定を得ているのか、その上位ランキングを調べたところ、「調査・コンサルタント」(24.1%)、「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(15.8%)、「建設・住宅・不動産」(13.9%)、「情報・インターネットサービス」(9.5%)、「ホテル・旅行」(6.3%)が、上位5業界だった。

また、内定を得た企業の規模もあわせて尋ねると、従業員「1,000人～4,999人」が44.3%で最も多く、「5,000人以上」も3割を超えている(31.0%)。意外にも、就職戦線の序盤から大手企業が内定を出している様子が見て取れる。当社が3月下旬に実施した緊急企業調査では、大手企業の採用意欲の高さが目立った。採用人数が増えた分、「選考解禁を待っていたら予定数を採りきれないのでは」との懸念から、早期に進めるケースも少なくないと見られる。

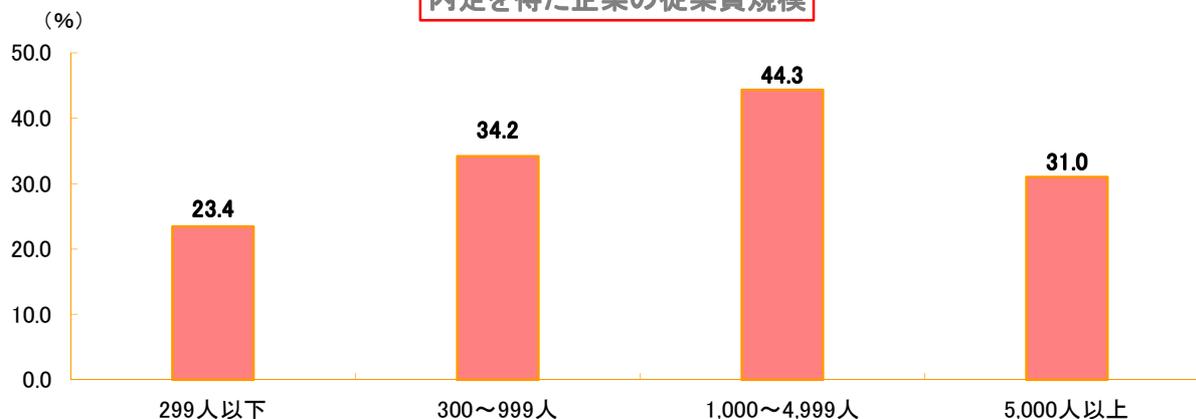
大手企業に先んじて優秀層に接触しようと狙っていた中堅・中小企業にとっては、予想以上に厳しい採用戦線となる可能性もあるだろう。

内定を得た業界

※5つまで選択 (%)

全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	調査・コンサルタント 24.1	調査・コンサルタント 35.9	情報・インターネットサービス 15.9	建設・住宅・不動産 25.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 35.7				
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 15.8	建設・住宅・不動産 15.6	ホテル・旅行 15.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.7	調査・コンサルタント 21.4				
3	建設・住宅・不動産 13.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 14.1	調査・コンサルタント 13.6	調査・コンサルタント 16.7	医薬品・医療関連・化粧品 14.3				
4	情報・インターネットサービス 9.5	情報・インターネットサービス 7.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 11.4	コンビニエンス・GMSストア 8.3	エンターテインメント 14.3				
5	ホテル・旅行 6.3	専社(専門) 6.3	建設・住宅・不動産 6.8	素材・化学 8.3	情報・インターネットサービス 14.3				
		専門店 6.3	専門店 6.8						
		農業・林業・鉱業 6.3							

内定を得た企業の従業員規模



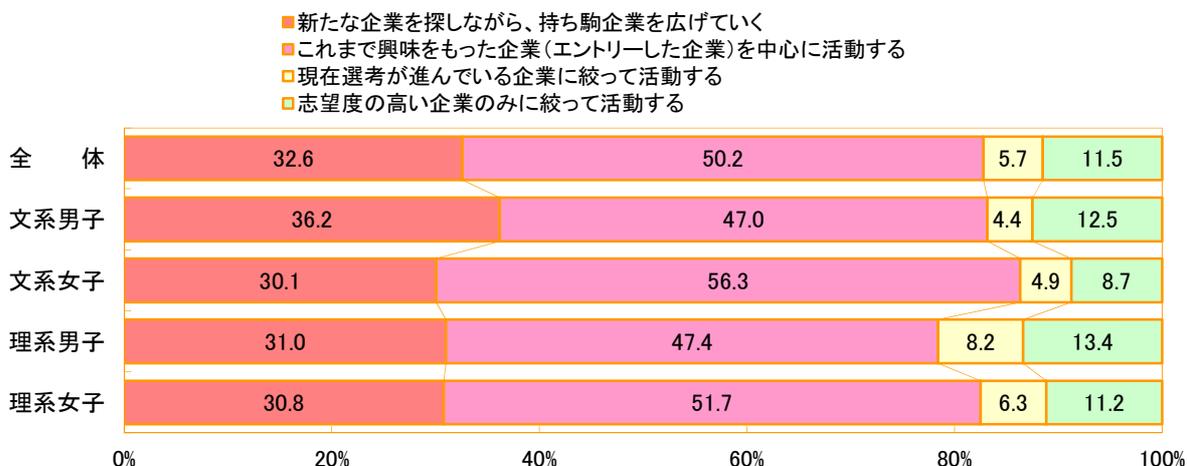
※複数の企業から内定を得た学生がいるため、複数回答

8. 今後の就職活動の戦略・方針

今後、就職活動をどのように進めて行くつもりかという戦略・方針を尋ねた。最も多かったのが「これまで興味をもった企業（エントリーした企業）を中心に活動する」という回答で、過半数が選んだ（50.2%）。これに対し、「新たな企業を探しながら、持ち駒企業を広げていく」は3割余り（32.6%）。

一方、新たな企業を探しているかといった問いには、全体の9割強（94.8%）が「探している」と回答。ある程度は志望先を絞りつつあるものの、多くの学生は自分の希望に合う企業との出会いを求めており、貪欲な姿勢が見られる。新たな企業を探す手段（ツール）は、「就職情報サイト」が9割を超え（92.0%）、圧倒的に多い。「合同企業説明会」は約半数が選んだ（47.8%）。

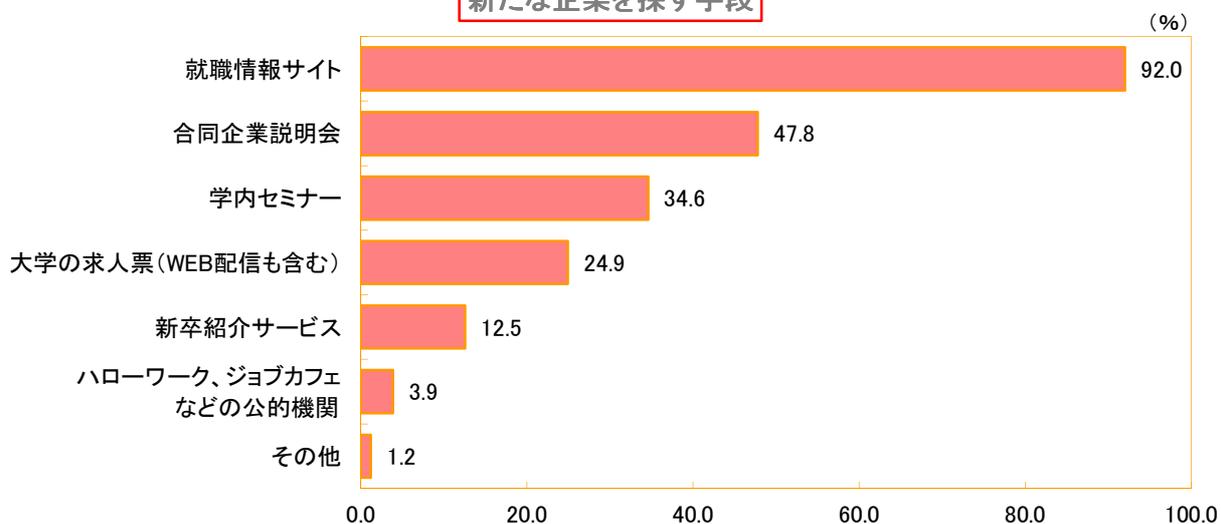
今後の就職活動の方針・戦略



新たな企業を探しているか否か

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
新たな企業を探している	94.8	94.2	93.5	98.2	93.4
新たな企業は探していない	5.2	5.8	6.5	1.8	6.6

新たな企業を探す手段



■就職活動に関して思うこと

- 3 月から 4 月の今だと ES を書く時間の他、セミナーや説明会に行ったり、SPI の勉強もしなければいけない。午前、昼、夕方、夜に 4 社まわって、帰ってきてから ES を書いて SPI を勉強すると、寝るのは夜中の 3 時からいになっている。次の日朝 7 時に起きると睡眠時間が 4 時間だけとなる。受験生時代よりも毎日がキツイ。ぶっちゃけ繁忙期の社会人よりも忙しいのではないだろうか。 <文系男子>
- 今年は例年よりも短期決戦で、時間的な余裕がないまま就職活動が進むだろうと思い、本当に体力勝負だと感じています。その一方で、2 カ月後には就職活動が終わっているかもしれないと思うと「今頑張ればいいんだ」と、短期決戦であることをポジティブに捉えることができます。 <文系女子>
- エントリーシートや説明会の日程が集中する傾向があり、学生にとっては辛い状況。 <理系男子>
- それほど自己分析をしっかりとしたわけでもなく、また添削を誰かにお願いしたこともほとんどないのにもかかわらず、エントリーシートで切られることがほぼなくて、わりと楽だなという印象があります。 <文系男子>
- 早くも大量のエントリーシートの×切に苦しめられているので、企業の人事部の皆様には×切まである程度の期間を設けてエントリーシートを公開してほしいと切実に感じます。 <文系女子>
- 短期決戦型と言われているため、面接に落ちる度に後がないような気になる。また説明会、面接の日程がかわるため、6 月前倒しの影響は大きい。 <文系男子>
- 私は学校推薦を使う予定のため、あまり焦っていないが、推薦を使って落ちてしまったときを考えると不安です。 <理系男子>
- 内々定を頂きホッとしています。6 月から選考が始まる企業へ自信を持って臨めると考えています。 <文系男子>
- 今回の就活は短期決戦で大変。エントリーの締め切りに追われ、会社説明会が重なり、予約が満員。会社の動きも早く、一週間以内に次の選考が進み、準備が間に合わない。事前準備が分かれ道だと思った。 <理系女子>
- 3 月～5 月末までと準備期間が短い分、次々と消化しなければならず、多少の迷いがありつつも ES を出さなければならない。しかし、それが消化不良になり、あまり志望動機が書けなかったりしています。企業の方も、6 月より前に積極的にコンタクトを取って吟味しているのかなという感じもします。 <理系男子>
- 卒業論文が手つかずで、読まなければならない本が 20 冊ほどあるのに全く進んでいない。就活と学業の両立が難しい。 <文系女子>
- 大学で受けたい授業があるのに、平日に説明会が集中するため計画を立てにくい。地方在住なので、東京で就活をしにくい。 <文系男子>
- 3 月はセミナーなどが集中して大変でした。今後、大学の研究が始まりスケジュール的な不安が大きい。 <理系男子>
- 毎日締め切りに追われているので、全然研究できません。 <理系女子>
- 選考に進めば、そのときに次回選考の日程が開示されるので、その日程と新たに関心がある企業の説明会がかわってしまい、思ったよりも企業を見に行けていないのが残念な点です。 <文系女子>
- 基本的に ES は出せば通り、面接は受かるので、就活が厳しいとは思わない。 <理系男子>
- やはりリクルーターやインターンの重要性が増しているのではないかと考えている。企業もなるべく早く接点を持つようとしているのが感じられる。一方で、私の周囲の学生の感度は高くない。全国的には学生も危機感を持っているようで、学生間の内定格差が生まれそうだと感じている。 <文系男子>
- 予定が重なって大変なこともあるが、様々な企業のお話や面接を通して将来の自分のなりたい姿が少しずつ明確になってきたので、就活は人生においても非常にいい勉強の場であると思う。 <理系女子>